

県が2008年度に実施する施策は、新長期総合計画に掲げる6つの柱20項目の実現に重点化を図った。

【①未来を拓(ひら)くひたむきな人間力の育成】

■きのくに市民性教育推進1000万円

学校、家庭、地域・各種団体が教育の課題について話し合い、課題解決に向けて取り組む「地域共有コミュニティ」を各市町村に創設し、市民性を高める教育を全体的に展開する。

【②生涯現役で誰もが活躍できる社会の実現】

■紀州3人っこ施策1億円(保育料助成)

少子化対策の強化で3人以上の子どもを育てる家庭の経済的負担を軽減するため、第3子以降の3歳未満児の保育料を無料にする。実施主体は市町村で、負担割合は県と市町村が2分の1ずつ補助する。

■医師確保修学資金1200万円

4月から県立医科大学の入学定員が現在の60人から85人になる。増員25人のうち5人は「地域医療枠」とし、入学条件を県内高校出身に限定し、知事が指定する医療機関で勤務することを条件に返還を免除する奨学金(1人月額20万円)を設定する。

【③国際競争力のあるたくましい産業の育成】

■中小企業中核人材導入支援9000万円

優れた経営能力や高度な専門知識を持つ人材を県内企業に紹介したり、事業戦略の指導をしてもらったりして中小企業の成長を支援する。

つ人材を県内企業に紹介したり、事業戦略の指導をしてもらったりして中小企業の成長を支援する。

■県産農産物販路拡大推進1303万円

県産品の知名度向上と新規販売ルートの開拓を目的に、青果物や加工食品を取り扱う「ミニ・アンテナショップ」(ミニわかやま喜集館)を展開する。県内JAと連携して都市圏のスーパーや百貨店50店舗で実施する。

■新農業人あんしん自立支援1427万円

長期総合計画初年度

6つの柱に20項目

08年度県当初予算案

所得が不安定な就農1年目の農家に対する生活資金貸付制度や将来的に地域のリーダーとして活躍が見込まれる新規就農者に就農奨励金を支給する制度を創設する。

■漁業長期予報さきどり539万円

独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)との共同研究で、2カ月先の漁場の様子が予測可能な長期予測システムの開発を行う。

【④癒やしと感動を与える誇れる郷土づくり】

■古道散策者のための熊野古道整備4685万円

熊野古道の案内板や標識を3県(三重、奈良、和歌山)統一スタイルの道標に整備し直す。3年間かけて県内全域で取り組む。

■熊野古道サンティアゴへの道提携10周年1500万円

熊野古道とスペイン・ガリシア州のサンティアゴへの道との姉妹道提携で10周年を迎えることを機に、交流プロジェクトとして共同プロモーションを実施する。

【⑤県民の命と暮らしを守る安全・安心の確立】

■新通信指令システム構築7855万円

110番通報の受信など警察活動の根幹となる通信指令システムの更新で、新たに携帯電話の発信地表示機能を追加し、初動対応を大幅に速やかにする。

■さしゅう君の防犯メール1441万円

犯罪情報や防犯情報を速やかに県民に提供するため、県警がメールの配信システムを構築する。

【⑥にぎわいと交流を支える公共インフラの整備】

■和歌山を元気にするIT人材育成700万円

農家や小売業者がインターネットで農産物や商品の販売を効果的にできるようにするための「ネット販売支援研修」をはじめ、教員が授業でインターネットを有効活用できるようにするための「IT活用教員育成研修」を実施する。